



初心忘るべからず

先日の1年生の学年集会で、交通安全のこととともに、入学式で話したことについて、もう一度話しました。少し、中学校生活の日常に慣れてきたときだからこそ、考えてもらいたい。まもなく部活動も始まる今だからこそ、覚えておいてほしい。そんな思いから、聞いてほしかったということも伝えました。

- 毎日の忙しさで、入学したときに「がんばろう」と思ったことを、忘れていませんか？
- もし、小学校の時に「こういうところがいけなかったなあ」と反省することがある人は、中学校入学をチャンスとして、新しい自分にチャレンジしようと言いましたね。まわりの人も、友だちのやる気を認めてあげてくださいと言いました。そのことができていますか？

そんな話をしました。

今日は、このうちの一つ目のことに関連した話を書きます。

皆さんもよく知っているであろう「初心忘るべからず」という言葉は、もとは能の大成者である世阿弥の言葉であると言われており、彼が著した「花鏡」の中の「奥の段」に出てくる言葉です。今では、「物事に慣れてしまうと慢心してしまいがちだが、最初の頃の志を忘れてはいけない。」という意味で使われるのが一般的です。しかし、世阿弥の言葉は、もっと深く、繊細な意味を持っていると言われていています。

是非の初心忘るべからず 時々の初心忘るべからず 老後の初心忘るべからず

「是非の初心忘るべからず」は、「未熟だった頃の芸を忘れることなく、判断の基準として芸を向上させていかなければならない。」ということ。「時々の初心忘るべからず」は、「その年齢にふさわしい芸に挑戦するということは、その段階においては初心者であり、未熟さやつたなさがある。そのことを忘れてはいけない。」ということ。「老後の初心忘るべからず」は、「老年期になって初めて行う芸というものもあり、そこには初心がある。年をとったからもういいとか、完成したとかいうものではない。」ということだそうです。限りなく芸というものを極めようとする世阿弥の考えが表れていると思います。そして、初めてのことに取り組む新鮮な気持ち以上に、自分の未熟さを忘れず、おごり高ぶったり油断したりせず、謙虚な気持ちで物事に取り組むことの大切さを説いているのだと考えます。そうなのであれば、この考えは、芸の道に限らず、勉強や仕事、もっと言うと人生そのものにも通じる言葉であり、「初心」は一生続くものだと考えられます。

どんな場面で、いかなる困難に直面しても、この考えを思い出し、謙虚に、そして誠実に、努力を積み重ねていきたいものですね。

感染防止対策のお願い

先日のHome&Schoolでも配信しましたが、香川県の「感染拡大防止対策期」が、5月15日(日)まで延長になりました。香川県は、4月23日までの6日間連続で、その日までの直近1週間の人口10万人あたりの新規感染者数が、多い方から10都道府県の中に入っていました。三観地区も、依然として学校関係(児童生徒)の感染が続いています。これからゴールデンウィークが近づくとつれ、人の移動も増える時期になります。香川県からも、「三つの密の回避」「人と人との距離の確保」「不織布マスクの着用」「手洗いや手指消毒」などの基本的な感染防止対策を徹底するよう呼びかけられています。生徒の皆さんも、自分やご家族の健康や命を守るために、「うつらないこと・うつさないこと」を考え、もう一度自分の生活を見直し、これまで言われている対策を徹底してください。保護者の皆様へお願いします。感染防止対策は学校でも指導しますが、どうかご家庭でも、引き続きご指導をお願いします。どんなにがんばっても、感染リスクをゼロにすることはできませんが、少しでも下げることができると考えます。特に、ゴールデンウィーク期間中のご協力をよろしくお願いいたします。

香川県からのお願い
心がけよう!
「新しい生活様式」

3密(密閉・密集・密着)を避ける!	 こまめに換気!
 会話はマスク!	こまめな手洗い、 咳エチケット!
 十分な距離を!	 毎朝、体温チェック!

香川県